

鞠智城跡の発掘調査の歴史と成果

熊本県立裝飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館長

大田幸博氏



大田幸博（おおた・ゆきひろ）

昭和47年学習院大学法学部卒業。県立大津産業高校教諭を経て、昭和51年から熊本県教育庁文化課に勤務。平成14年4月から現職。専門は中世城郭研究。主な共著は『熊本県の中世城跡』『五和町史』『荒尾市史』『深田村史』『新熊本市史』『大津町史』『北部町史』など。

1 鞠智城跡とは

鞠智城は、千三百年ほど前に古代国家の大和朝廷が築城した軍事施設です。当時どのような姿をしていたのでしょうか。八角形建物・米倉・兵舎・板倉などが、たくさん並んでいたと思われます。近世の熊本城のような天守閣があつて石垣があるようなものではありません。鞠智城を含めた古代の城は、当時の国歴史書に載っています。「記録にある鞠智城の記事」に挙げたとおり、「六国史」、つまり『古事記』を除いた『日本書紀』ほかの六つの歴史書に掲載されています。その数は十一城です。載っていないものを含めると現時点での数二十九城となっています。今後さらに数が増すことが考えられます。その十一城のなかに鞠智城は該当します。今年、古代山城としては対馬の金田城かなだ、福岡の大野城、佐賀の基肄城に次いで四番目の国指定史跡になりました。

2 鞠智城跡を探る先学の足跡

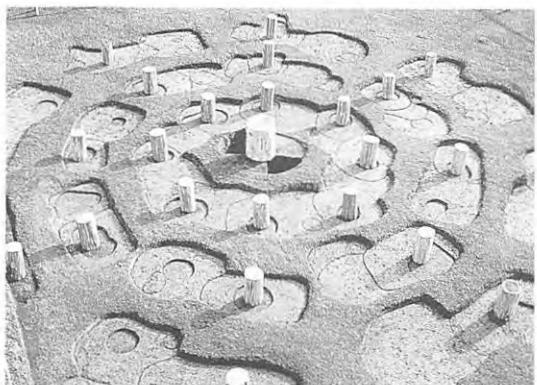
この鞠智城に関しては江戸時代から場所が探されています。地元の方々はよくご存知の「菊池城十八外城」で有名な渋江公正という方が、江戸時代後半の王政復古の流れに乗り、鞠智城の場所を探したのが記録に出てくる最初です。昭和に入つて戦前に、菊池郡泗水町出身で熊本県の文化財研究の草

分けた存在である坂本経堯先生が精力的に場所探しをされ、いろんな研究をされています。昭和二十八年に、九州大学教授の鏡山猛先生が「鞠智城の調査保護計画」を作成して、熊本県に陳情されます。三十三年には坂本経堯先生が鹿本郡菊鹿町と菊池市にまたがる米原地区よながるを鞠智城に比定されました。翌三十四年に「伝鞠智城」として県指定となり、昭和五十一年に現在の鞠智城と名称を変えたわけです。

3 発掘調査の実施と成果

鞠智城の発掘調査について、現在に至る調査システムは昭和四十二年から行われています。この年から本格的な発掘調査が開始されました。現在の米原台地で桑畑やサツマイモ畑を水田に開墾する開田作業の際に、たくさんの礎石が出土し、鞠智城がにわかにクローズアップされました。急遽、調査団が組織されて昭和四十四年まで調査が行われています。昭和五十四年に町道拡幅事業が行われた際にも発掘調査が行われました。昭和五十五年、同六十一～六十四年には、文化庁の補助事業として県文化課が調査を実施、平成二年、細川護熙県知事のときに県の予算が注がれ、鞠智城の調査が飛躍的に伸びました。折しも、佐賀県では吉野ヶ里遺跡が爆発的な宣伝をやっており、「熊本県でも」との気持ちがあつたことも否定できません。平成二年は鞠智城の調査にとつて非常に大きな節目の年になりました。

平成三年には写真①のような八角形建物跡が出土しました。柱を地下に直に埋め込んだ建物で、柱



① 八角形建物跡



③ 貯木場跡（貯水池跡）



② 木簡（「秦人忍口(米カ)五斗」と書かれている）



④ 木組遺構（貯水池跡）

の周りの大きな穴は柱を埋めるために掘った穴です。これを基にして復元したのが、八角形鼓楼です。鞠智城で国内の古代山城として初めて八角形建物跡が発見された画期的な年が平成三年です。それから、

平成五年になつて現在の町道の東側を調査しました。この区域は一段高くなつており現在畠と水田ですが、そこからは遺構が発見されない。鞠智城の空白地帯があることが分かりました。

平成九年には池跡が見つかりました。この池跡は谷間を利用した貯水池で、五千三百平方メートルの谷間を利用したもので、鞠智城の水堀が見つかったのです。貯水池の発見も古代山城では初めてでしたが、さらに木簡も出てまいりました。文字が書かれた木札で、写真②に示すとおり「秦人忍□（米力）五斗」と書かれており、米俵に付けた木札です。これは、非常に大きな発見でした。同じく上位部が貯木場（写真③・④）として使われていたことも判明しました。

このように国内の古代山城として初めての発見が相次ぎ、鞠智城が全国に知られるきっかけとなつたわけです。西側土壙線で瘦せ馬の背中のような山の尾根があり、これを土壙線といいます。東側は崖線、そして北側と西側は土壙線、東側と南側は崖線に囲まれ、この範囲が鞠智城であり、面積が約五十五ヘクタール、東京ドーム十二個分の広さです。現在は西側土壙線の調査を行つて大きな成果を上げているところです。写真⑤のような礎石建物、これは重量がかかりますので柱がたくさんあります。米倉だらうと推定されています。それから、写真⑥のように周りだけに柱があつて真ん中にはありません。こういう類のものは管理棟的建物であろうと推定しています。

4 おわりに

最後に現場を預かる者として、中学生、高校生の皆さんにお話したいと思います。今日のシンポジウムの内容は少し難しいかもしれません、たとえて言うならプロ野球の選手のプレーを野球部員が手本とするように、先生方の話を聞いて鞠智城のことを持つ一つでも学んで帰っていただきたい。それで十分です。そして、将来の鞠智城をここに出席している地元の皆様方、君たちに担つてもらいたいと切に願っています。



⑤ 础石建物



⑥ 建物跡（周りだけに柱がある）

鞠智城跡発掘調査の歩み

調査年度	調査地区	検出遺構	概要		調査組織
			昭和42年	次	
62	61	55	54	44	43
9	8	7	6	5	4
長者山地区	米原	長者原 上原	長者原 上原	長者原 長者山	長者原 長者山 西側土塁線
45 建物跡 48号		宮野礎石群	竪穴遺構(弥)	掘立柱建物跡	宮野礎石群 長者山礎石群
出土		[文化庁国庫補助事業] ・長者山礎石群の調査。多量の炭化米と瓦が 作業	[文化庁国庫補助事業] ・宮野礎石群の全面露出 (昭和56年11月11日付けて県史跡に追加指定)	[文化庁国庫補助事業] ・上原地区的調査	・町道(立徳・稗方線)改良工事に伴う事前調査 軒丸瓦片が出土
熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	菊鹿町教育委員会	鞠智城調査団	鞠智城調査団

4	3	2	平成元	63
14	13	12	11	10
長者原 区	長者原地区	長者原地区	長者原地区	長者原地区
36 建物跡 44号	20 建物跡 35号	16 建物跡 18号	5・6号 建物跡 7・10号 建物跡 19号 建物跡	11 建物跡 15号
* 物を検出 ・上原地区から建物群の空白地域が見つかる ・「内城」の土墨線を測量。一部で試掘を実施	* 文化庁国庫補助事業と県の自主事業による 重要遺跡確認調査を行う ・町道西側一帯の調査。軒丸瓦が出土 ・八角形建物跡2棟を検出	* 継続して文化庁国庫補助事業と県の自主事 業による重要な重要遺跡確認調査を行う ・駒智城の終末期にあたる9世紀代の礎石建 物を検出	〔文化庁国庫補助事業〕 ・掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡2棟を検出 ・長者山東側裾部一帯（宮野礎石群を含む） の調査	〔文化庁国庫補助事業〕 ・掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡2棟を検出 ・宮野礎石群周辺及び小監ドンの調査 ・礎石建物のみでなく、掘立柱建物跡の存在を 確認
熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会

調査年度	平成5	6	2	8	調査地区	検出遺構	概要	調査組織
次	15	16	17	18	上原地区	51 54号 建物跡	* 文化庁国庫補助事業として、重要遺跡確認調査を行う	
長者原IX区	長者原II区	95 —I区	95 —道路区	長者原IV区	深迫地区	版築土壘 登城道	・上原地区は、遺構の空白地帯であることが判明 ・町道東側二帯(上原地区)の調査	熊本県教育委員会
1号不明土坑	56号建物跡 1~3号土坑	D3 号建物跡	D2 号掘立柱建物跡	D1 号掘立柱建物跡 50号建物跡	D1 号堅穴住居跡	・50号建物跡は、礎石基底部に根石を配して構築 ・同様の工法は、49号建物跡(宮野礎石群)、20 ・23号建物跡、38号建物跡の一部に採用	・谷部を閉じるように構築された版築土壘を検出 ・登城道を検出	
* 56、 59、 65号建物礎石の原材料採集地の検討 有 る	・須恵器の高坏1個体が埋納 ・整地層を確認 ・56号建物跡の整地層及び礎石掘り込み出土遺物のうち最も新しいものは、8世紀後半 ・9世紀前半 ・同建物遺構下(4)層出土の遺物は、7世紀後半~9世紀前半の時間幅をもち、整地層の存在から、創建期の建物の存在する可能性	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会					

11	10	9	
21	20	19	
堀切門跡	貯水池跡	貯水池跡	長者原Ⅲ区
道路跡	貯水池跡	貯木場跡	66号建物跡 64号建物跡 63号建物跡 62号建物跡 61号建物跡 60号建物跡 65号建物跡 6号建物跡 7号建物跡 40号建物跡 4号建物跡 6号溝 7号溝 36号建物の整地段階には廃棄された
3面上下に重なる	・2~4号木簡を検出 ・建築材を検出。未製品の膝柄を保管、貯木 ・門周辺の道路跡を検出。道路跡は、最多で ・小谷から水を取り込むための遺構を検出 ・地山の高まりに礫を配置し、水勢を調節	・継手、仕口加工のある建築材を検出 ・木舞、男性器形木製品、斧柄を検出 ・地山の高まりに礫を配置し、水勢を調節	*4時期に区分可能 ・64号建物跡に伴う周溝から、百濟系軒丸瓦 （単弁八葉蓮華文）を検出 ・1号木簡を検出（秦人忍米五斗） ・建築材、横槌、鍬の膝柄、曲柄平鍬等を検出
	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会

15	14	13	平成12	調査年度
25	24	23	22	次
貯水池跡 西側土墨線 長者山西地区	南側土墨線 長者山西地区	貯水池跡	堀切門跡 貯水池跡	調査地区
土墨	72号建物跡	堰堤跡 版築土墨 68～72号 建物跡	水汲み場跡 堰堤跡	検出遺構
・土墨構造の確認	・層 ・72号建物（礎石総柱建物跡）、炭化米堆積	・土墨の構造を確認 ・版築、削り落とし、柱穴等を確認 ・69、70号建物（掘立柱総柱建物跡）、 建物（礎石総柱建物跡） ・水汲み場跡よりやや北側において、堰堤跡 を確認（平面）	・湧水地点において、井戸枠に該当する木組 み枠を検出 ・水汲み場跡よりやや北側において、堰堤跡 を確認（断面） ・登城道跡が延びる方向を把握 ・門礎石の原位置を把握	概要
熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	調査組織

〔各年度の調査面積は、約5,000m²である〕

鞠智城の研究略史

時代	研究者	文献	概要
昭和	明治	江戸	
熊本地歴研究会	中島秀雄	八木田桃水	『文徳実録』の「天安二年菊池郡不動倉十一宇火」との記事を米原村長者屋敷に比定。
	大阪毎日新聞	森本一瑞	『肥後國誌』 〔明和9(1772)年〕 『桃元問答』
		吉田東伍	『大日本地名辞書』
			深川説を否定して、鞠智城は兵庫や不動倉などを持つてゐる官城であるので、隈府、水島、米原の二帶にわたる広大な地域を占むるものであろうとみている。 「鞠智城を辺地の肥後國菊池郡に求めるのは、大野城を豊後國大野郡に求めるのと同じである」と笑つてゐる。
			「米原の要害こそ、統日本紀文武天皇二年五月、大野、基肄城とともに繕治された鞠智城であろう。礎石の並ぶ山、多くの礎石が出た烟、焦米が層をなして埋まつてゐる烟、涼みヶ御所、鳥ヶ城、シャカンドン、紀屋敷、宮床、馬洗淵、長者井戸などの地名がある」と報じて いる。
			基肄城跡を踏査して米原における遺構と比較し、基肄城跡の研究者久保山善映氏や松尾禎作氏なども米原の遺構を踏査した。「長者の的石」は朝鮮式山城の城門礎であることを確かめた。

昭 和					時代	研究者	文献	概要
31		28	13	17	12	坂本経堯	『地歴研究第10篇』5	「鞠智城址に擬せられる米原遺跡に就いて」を発表。
島田正郎	滝川政次郎 (菊池古文化調査団)	坂本経堯	鏡山猛 (九州文化総合研究所)	松尾條規			『日本談義』 VOL. 51	「鞠智城考」を発表。 鞠智城の文献を収録して性格を考え、米原高台に登る東、南、西の城門礎、水門礎、長者山の礎石間尺、土壘線などは朝鮮式山城の規模に類し、焦米の多量の埋没は、「天安二年不動倉十一字火く」の史実を物語つているとした。特に土壘線は自然尾根を利用して外側を切り落とし、鞍部にのみ盛土した状態であることに注意し、さらに土壘線は米原台地周辺だけでなく、これを内郭として壘線は頭合より木野丘陵を北に登つて城北の谷をいただく外郭を形成することに注目した。
						城北村史蹟顕彰会会长。鞠智城跡を調査し、標木を建てて保護顕彰に努めた。		
					10月、大宰府、大野城、基肄城の一連の調査として、「鞠智城の調査保護計画」を作成し熊本県に対しても陳情を行うが実現しなかった。			
				11月、熊本史学会で「鞠智城跡について」発表。				
8月、菊池市において「高句麗国内城と鞠智城」について講演した。				8月、米原一帯の遺構を調査し、特に長者山の礎石列を実測した。				

昭和			
51	42	34	33
熊本県教育委員会	熊本県教育委員会	『熊本の歴史』 熊本日々新聞社発行	9月、鞠智城を米原に比定し、掲載。
		12月、「史跡・伝鞠智城跡」として長者山礎石群、 深迫門礎石を県史跡に指定。	8月24日付けで、名称を「鞠智城跡」と改称。

